

日韓の女性の地位を性平等の課題

要旨

氏名：金 東熙

日本も韓国も女性の社会進出が進み、女性の地位は向上したと言われている。しかし、本当にそうなのだろうか？ 本稿は聞き取り調査と資料調査を用いて、日本と韓国における女性の地位の現状と性平等の課題、特に性暴力について考えた。

日本と韓国との性の不平等を示す 3 つのデータがある。第 1 に、世界経済フォーラムのジェンダーギャップ指数をみると 144ヶ国の中で日本は 111 位、韓国は 116 位 に位置しておりアジア国の中でも低い順位を示している。また第二に、2018 年女性の年齢階級別労働率グラフを見ると、日本と韓国ともまだ M 字の形をしており、女性が結婚、子育て期に仕事から撤退することが確認できた。最後に、それぞれの国の合計特殊出生率は、2016 年に日本は 1.44 人、韓国は 1.17 人で、同年の OECD 各国の平均値である 1.68 人に遠く及ばない。これは他の少子化の国でも共通的に見られるように、性の不平等、ワークライフバランスの不均衡が考えられる。このように、日本、韓国とともに、女性の地位が高いとは言えない。

それぞれの国で女性たちはどのように考えているのかを知るため、聞き取り調査を韓国と日本で実施した。調査対象は女性に限り、韓国は女性運動活動家

1人・社会人1人・大学生1人に聞き取り調査をし、日本は弁護士による学会発表、大学生一人に対する聞き取り調査を行った。性に対する意識は年齢によって大きく変わるために、社会人と大学生は年齢を20代に絞っている。聞き取りの聞き取り調査の内容から韓国と日本における性意識を考察した。現在、韓国ではMe Too運動などによって性暴力を根絶していくこうとする動きが確認でき、それぞれの個人も関心を持っていた。しかし、日本では大きな動きにはなっていない。その原因としては韓国では日本に比べてさまざまな事件において女性嫌悪が露骨に表れていること、また犯罪率が高いことも考えられた。一方で日本では露骨な女性嫌悪は表れないものの、声を上げた人を非難する雰囲気が認められた。

それぞれの国の女性の運動の状況は異なってはいるが、どちらも女性の地位が世界的には低いことには変わりない。お互いの相違点を知り、見習うべき点を探していく、両国で性平等の意識を高めていくことが重要だと考える